



宮のおんがく会 vol.6 ~フルートと弦楽器が紡ぐ音のサプリメント~

2015.10.25(日) 開場13:30 開演14:00 富士宮市民文化会館大ホール

主催：宮のおんがく会実行委員会 後援：富士宮市教育委員会



ごあいさつ

今日は、「宮のおんがく会vol.6 ～フルートと弦楽器が紡ぐ音のサブリメント～」に御来場いただき、誠にありがとうございます。

この「宮のおんがく会」は、地元出身の音楽家及び富士宮市を中心に活動する音楽家の方々のコンサートを開催し、市民の皆様に鑑賞いただくことにより、音楽を通じて地域文化の発展に寄与することを目的とし、今年で6年目を迎えました。

今回のコンサートは、フルートと弦楽器を中心としたプログラムでお届けする「～音のサブリメント～」です。深まる秋の午後のひと時、フルートと弦楽器が紡ぎだす美しい音色で、忙しい日常を束の間忘れ、ゆったりと楽しんでいただけたら幸いです。

最後になりましたが、開催に当たり御協力いただきました関係者の皆様に心より感謝申し上げますと共に、今後も市民の皆様に楽しんでいただけるような事業を企画してまいりますので、皆様の御支援御協力をお願い申し上げます。

宮のおんがく会実行委員会委員長
公益財団法人富士宮市振興公社理事長
河原崎 信幸



「宮のおんがく会 Vol.6」開催に寄せて

第6回「宮のおんがく会」～フルートと弦楽器が紡ぐ音のサブリメント～が盛大に開催されますことに心よりお喜び申し上げますとともに、開催に向けて御尽力いただきました関係者の皆様方に厚くお礼申し上げます。

この「宮のおんがく会」は、富士宮市の内外で活躍されている市に縁のある音楽家の皆様に御出演いただき、より多くの方々に音楽を身近なものとして、お楽しみいただくという思いを込めて開催しており、毎回、地元音楽家による美しい演奏をお届けしています。

第6回を迎える今年は、「フルートと弦楽器が紡ぐ音のサブリメント」と題し演奏されます。小鳥のさえずるような明るく澄んだフルートの音色や弦楽器の優美さや温もりなどを感じていただけるものと思います。音楽は、人々の心を癒し、勇気づけ、豊かにする力があります。御来場の皆様におかれましては、深まる秋の午後、格調高く味わい深い演奏にじっと耳を傾け、心満たされるひと時をお過ごしいただければ幸いです。

結びに、「宮のおんがく会」が、今後も開催され、富士山の麓に降り注ぐ朝陽のように光放つ文化として受け継がれ、芸術、文化としての音楽が市民の皆様に愛され、より身近なものとして広がっていくことを心より祈念し、私のあいさつといたします。

富士宮市教育長 池谷 眞徳

Program

〈第1部〉

1. F.J.ハイドン：ピアノ三重奏曲第28番
I. Allegro
Fl 小泉ゆい Vc 石崎翔子 Pf 武内みさき
2. A.ドヴォルザーク：弦楽四重奏曲第12番「アメリカ」
I. Allegro ma non troppo
II. Lento
III. Molto vivace
IV. Vivace ma non troppo
Vn1 市川友佳子 Vn2 石崎諒子 Va 高橋梓 Vc 石崎翔子
3. F.ボルヌ：カルメンファンタジー
Fl 小泉ゆい Pf 武内みさき

—— 休 憩 ——

〈第2部〉

4. W.A.モーツァルト：セレナード第13番 K.525「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」
I. Allegro
Vn1 石崎諒子 Vn2 市川友佳子 Va 高橋梓 Vc 石崎翔子
5. W.A.モーツァルト：フルート四重奏曲第1番 K.285
I. Allegro
II. Adagio
III. Rondeau
Fl 小泉ゆい Vn 石崎諒子 Va 高橋梓 Vc 石崎翔子
6. A.ヴィヴァルディ：ヴァイオリン協奏曲「四季」より「秋」
I. Allegro
II. Adagio molto
III. Allegro
Fl 小泉ゆい Vn1 石崎諒子 Vn2 市川友佳子
Va 高橋梓 Vc 石崎翔子 Pf 武内みさき

Program Note

1. F.J.ハイドン：ピアノ三重奏曲 第28番

数多くの交響曲や弦楽四重奏曲を作曲し、「交響曲の父」や「弦楽四重奏の父」などと呼ばれるハイドンだが、ピアノないしチェンバロを含む三重奏曲も、少なくとも40曲以上書いている。そのうちの大半はピアノ、ヴァイオリン、チェロといった編成で、ピアノ、フルート、チェロという編成をとっているのはわずか3曲。ちなみにこの曲のフランス語のタイトルは「フルート、チェロの伴奏付きのピアノ三重奏曲」となっている。

2. A.ドヴォルザーク：弦楽四重奏曲第12番「アメリカ」

ドヴォルザークの室内楽作品の中でも、より親しまれている作品と言えるだろう。

彼は交響曲「新世界」を書き上げた後、友人を訪ねてアメリカを訪れているが、その最中に約2時間で書き上げたという逸話が残っている。

新世界、アメリカ、のちに書かれたチェロコンチェルトと、ドヴォルザークの代表曲が数多く書かれた時期であり、当時のクラシック音楽のなかで異彩を放った、民族性や土着性を重んじ、人間らしさを追ったドヴォルザークらしさが随所に見られる作品である。

3. F.ボルヌ：カルメンファンタジー

「カルメン」はジョルジュ・ビゼーが作曲した、フランス語によるオペラである。非常に人気の高い作品で、隅から隅まで名曲揃い、まさに名曲の宝庫である。フルートにも活躍の場がふんだんに与えられており、この曲には残念ながら使用されていないが、第3幕の間奏曲のソロが最たるもの。

ボルヌは19世紀末にフランスで活躍したフルーティスト兼作曲家で、この作品はボルヌにとって現存する唯一のフルート作品である。自らベーム式フルートの改良に携わった彼の作品は、フルートの音域とテクニックが堪能できる出来映えとなっている。

ビゼーのオペラの名場面の中から、まずホセがカルメンに復縁を迫る、フィナーレの場面で歌われるメロディーからフルートが始まる。そしてこの作品の要を成すのは、第1幕でカルメンが登場と共に妖艶に歌う「ハバネラ」による2つの変奏。そして劇中の随所に姿を現す「運命のテーマ」、第2幕の冒頭にエキゾチックなメロディーで歌い踊られる「ジプシーの歌」、また前奏曲でもおなじみの「闘牛士の歌」を経て、技巧的なパッセージをはさみながら華やかにクライマックスへと進んでいく。

4. W.A.モーツァルト：セレナード第13番 K.525 「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」

1787年にウィーンで発表された、おそらくモーツァルト作品の中で最も有名な曲だろう。明るく軽やかな印象だが、モーツァルトへ多大な影響を与えた父レオポルトの死後間もなく作られたという事は、あまり知られていないかもしれない。

今となってはよく知られた作品だが、楽曲の形式がセレナードとされている点からみて、ごく親しい人物へ送られた、私的な曲であったと思われる。

日本語で「小さな夜の曲」という名前がつけられており、当時の貴族達の、優雅な生活を垣間見ることが出来る曲となっている。

5. W.A.モーツァルト：フルート四重奏曲第1番 K.285

フルート愛好家ドジャンの依頼に応じて1777年に作曲されたものだが、この時代のフルートは現在の楽器のように自由な奏法はあろが、音程も悪かった。そのため父への手紙の中では「がまんができない楽器（フルート）のために作曲しなければならないときはいつでも頭がぼけてきます」とさえ語っており、モーツァルト本人は気乗りしない仕事だったと思われる。しかしそんな楽器に対する嫌悪にも関わらず彼の才能は至るところに光っており、モーツァルトが書いたフルート四重奏曲の中でも、第1番は特によく知られた作品となっている。

6. A.ヴィヴァルディ：ヴァイオリン協奏曲「四季」より「秋」

1725年に出版されたこのヴァイオリン協奏曲集は、「四季」のタイトル通り、第1番から「春」、「夏」、「秋」、「冬」とそれぞれの季節の情景が描かれている。

電車の発車メロディーに使われたりCMで使われたり、「四季」がこれほどポピュラーな曲になった理由としては、この作品が「わかりやすい」ことが大きいのもかもしれない。実際にこの「四季」は各楽章にソネット（叙情詩）がつけられていることが大きな特徴で、歌こそつけられていないもののほとんど歌詞付きと変わらない内容となっている。

本日演奏する第3番「秋」は、秋の収穫を祝うかれ騒ぐ農民たちが描かれており、各楽章につけられたソネットの簡約、1楽章「小作農のダンスと歌」、2楽章「酔っ払いの居眠り」、3楽章「狩り」を参考にしながらお聴きください。

解説 1,3,5,6 小泉ゆい
2,4 石崎翔子

Profile



小泉ゆい
(フルート)

富士宮市出身。小学校6年生よりフルートを始める。東京藝術大学附属高校を経て、東京藝術大学音楽学部器楽科卒業。静岡県学生音楽コンクール管楽器部門中学生の部第1位。演奏家協会会長賞受賞。第53回、第54回全日本学生音楽コンクール東京大会中学生の部第3位。第55回全日本学生音楽コンクール東京大会高校の部入選。武生国際音楽祭、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン等の音楽祭に参加。2009年～2012年、洗足学園ニューフィルハーモニック管弦楽団補助団員。2010年、浜離宮朝日ホールにてリサイタルを行う。これまでにフルートを茅原初子、川島祐子、金昌国、萩原貴子、神田寛明、斎藤和志、高木綾子、竹沢栄祐の各氏に師事。また室内楽を守山光三、小畑善昭、三上明子の各氏に、ソルフェージュを茂木眞理子氏に師事。



市川友佳子
(ヴァイオリン)

4歳よりヴァイオリンを始める。東京藝術大学附属高校を経て、東京藝術大学音楽学部器楽科ヴァイオリン専攻卒業。2006年みえ音楽コンクール第1位、併せて岡田文化財団賞受賞。2007年JILA音楽コンクール第3位。大学卒業後、ヴィオラを始め、2009年市川市新人演奏家コンクール優秀賞。室内楽では2008年妹とのデュオでブルクハルト国際音楽コンクール最高位。2011年弦楽四重奏BienenQuartetで蓼科音楽コンクール第1位。2014年3月JSQの弦楽四重奏公開マスタークラスに参加。2014年4月より東京藝術大学大学院音楽研究科音楽教育ヴィオラ専攻在籍。



石崎涼子
(ヴァイオリン)

1歳よりヴァイオリニストの母の影響でヴァイオリンを始める。東京藝術大学附属高校を経て、東京藝術大学音楽学部器楽科卒業。パリ・エコールノルマル音楽院に留学。満場一致の第一位でディプロマを取得後帰国。第二回ルーマニア国際音楽コンクール室内楽部門において、姉妹デュオで優勝。これまでに、山岡耕祐、山岡みどり、宇野沢美緒、田中千香士、澤和樹、山崎貴子、沼田園子、ジョンムイェール、石崎俊子の各氏に師事。帰国から三年が経った現在は、後進の指導に力を注ぐと共に、高嶋ちさ子12人のバイオリニストメンバーとして活躍中。



高橋梓(ヴィオラ)
撮影：篠原栄治

子供向けテレビ番組の影響を受け、3歳からヴァイオリンを始める。高校入学を機にヴィオラに転向。東京藝術大学附属高校、同大学を経て、同大学院音楽研究科修士課程修了。

サントリーホール室内楽アカデミー第1・2期で研鑽を積む。ヴィオラを菅沼準二、C.ルローン、大野かおるの各氏に師事。第3回独・クワッケンブリュック国際芸術コンクール第1位、第9回日本演奏家コンクール第1位及び芸術賞、第7回仏・ボルドー国際弦楽四重奏コンクール特別賞等受賞。これまでにNHK-FM「名曲リサイタル」、新進演奏家育成プロジェクト、サントリーホール チェンバーミュージック・ガーデン等に出演。これまでに堤剛、若林顕、竹澤恭子、M.ブルネロ、R.バボラーク、カルミナ・クアルテット、クアルテット・エクセルシオと共演。



石崎翔子
(チェロ)

1歳からヴァイオリンを始め、母の勧めで5歳からチェロを始める。東京藝術大学附属高校を経て、東京藝術大学音楽学部器楽科卒業。ユネスコ主催「石崎翔子チェロリサイタル」、北野ホールにて「石崎翔子チェロコンサート」を開催。第二回ルーマニア国際音楽コンクール室内楽部門において、姉妹デュオで優勝。2009年、美浜文化ホールにて「第一回・弦楽器とピアノの為のコンサート」に出演。加山雄三、中西敬三、松田聖子の各氏等のコンサートに参加。「ダンボール戦記」「No.6」等のアニメ作品、ゲーム作品の音楽に参加。近藤嶺氏の作品に多く参加している。これまでに、崎野敏明、金谷昌治、花崎薫、山崎伸子、室内楽を松原勝也、岡山潔、古典始四重奏団の各氏に師事。現在、演奏活動、レコーディング、後進の指導に務める。東葛ジュニアストリングス&フレンズのトレーナー。



武内みさき
(ピアノ)

5歳よりピアノを始める。東京藝術大学附属高校、同大学を経て、同大学院音楽研究科修士課程修了。併せて、安宅賞、アカンサス音楽賞、同声会賞を受賞。在学中にアリアドネ・ムジカ賞を受賞し、藝大フィルハーモニアと共演。三菱地所株式会社より三菱地所賞を受賞。丸ビルにて受賞記念ソロリサイタルを行う。2011年、東京藝術大学大学院音楽研究科修士課程修了。ピアノ演奏優秀者によるジョイントリサイタルを表参道カワイコンサートサロンパウゼにて行う。

これまでに、下田幸二、小林仁、G.タッキーノ、E.ポブウォツカ、伊藤恵の各氏に師事。現在、帝京短期大学ピアノ実技非常勤講師。